機関との連携が不可欠な事業であり、情報提供等の連携システムについて、今後、本委員会でも検討していきたいとのことだった。

4．その他

・子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）について

本調査は、環境省の主導により、様々な環境物質が子どもに与える影響について調べるもので、平成22年度から３年間、全国で10万人の妊婦の登録を行い、13歳まで追跡調査を行うものである。調査は全国15ヵ所にユニットセンターと呼ばれる機関で行い、鳥取大学医学部が手を挙げる予定である。鳥取大学医学部では、西部地区の年間1,000人の登録を予定している。正式に採択された場合は、医療機関には専任の職員が出向いて登録などの説明などを行うようである。

実際、環境省によると児童等のぜん息や先天異常発生頻度が年々増加していることが報告されており、本委員会においても経過を見ていきたいとのことだった。

・子育て王国とっとりプランに（素案）ついて

全国的に出生率が微増している中、鳥取県においては２年連続で減少している。これを受け、県では、来年度から５年間の計画として、「子育て王国とっとりプラン」を策定し、鳥取県内での子育てを応援することとしている。少子化の原因としては未婚・晩婚化や若者の人口流出などが言われており、施策としては、子育てにかかる経済的な負担の軽減や子育てサービスの充実、結婚・妊娠・出産のトータル支援などである。

素案についてパブリックコメントを募集しており、小児科医会のメーリングリストを通じて周知していただくこととした。また、近年母親の「やせ願望」などにより低体重児（2,500g未満）が増えているとの指摘があり、親になるための教育の推進は重要である、との声があった。

発見がんの30%に内視鏡的切除

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会胃がん部会
鳥取県健康対策協議会胃がん対策専門委員会

■ **日　時**　平成22年２月４日（木）　午後１時40分～午後３時40分

■ **場　所**　鳥取県健康会館　鳥取市戎町

■ **出席者**（27人）
岡本健対協会長、池口部会長、吉中専門委員長
秋藤・伊藤・大城・大津・岡田・尾﨑・清水・謝花・西土井・長谷川・藤井・前田・三浦・三宅・宮﨑・八島・山口各委員
オブザーバー：森本智頭町保健師、岩船琴浦町保健師
県健康政策課：澤田副主幹、下田副主幹
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主事

【概要】

検診発見がん患者確定調査の結果、内視鏡検診が約10年間経過し、早期癌率78.4%で、切除例のうち内視鏡切除が全体の１／３を占

め、２cm以下の小さいものが多く見つかっている。

平成20年度実績によると、対象者の考え方を国の集計方式を採用したことにより対象者数が大幅に増加したことも、受診率減少に影響したと考えられる。がん検診受診率50%以上の目標達成には、対象者の捉え方が今後更に重要となってくるという意見もあった。

挨拶（要旨）

〈岡本会長〉

２月６日、７日に第40回日本消化器がん検診学会中国四国地方会が、鳥取県医師会で開催します。この学会を本年度の胃がん検診従事者講習会に充てることとしている。

関係者の皆様には大変お世話になりました。当日はよろしくお願いします。

〈池口部会長〉

平素、胃がん検診事業にご協力頂き、有難うございます。

平成20年度胃がん検診実績報告について、ご協議の程よろしくお願いします。

〈吉中委員長〉

平成20年度検診発見がん患者確定調査結果によると、内視鏡検診の結果は大変良い成績である。早期癌80%、m癌60%はすごいことだと思います。

岸本教授が関わっておられる厚生労働省の班研究の内視鏡検診の有効性評価の論文が来年の春には発表される予定です。

また、今年の日本内視鏡学会から、内視鏡検診研究会が付置されますので、演題を出し続けたいと思います。３年間の予定です。よろしくお願いします。

報告事項

１．平成20年度胃がん検診実績報告並びに21年度実績見込み及び22年度計画について

〈県健康政策課調べ〉：

澤田県健康政策課がん・生活習慣病担当副主幹

〔平成20年度実績最終報告〕

対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）188,186人のうち、受診者数はX線検査18,099人、内視鏡検査は24,700人で合計42,799人、受診率は22.7%で、平成19年度より3.1ポイント減少した。対象者数は全市町村で国が示している対象者の算定方法を取り入れられた結果、平成19年度より16,656人増えた。内視鏡検査の実施割合は57.7%である。

X線検査の要精検者数は1,363人で、要精検率7.5%。精検受診者数1,131人、精検受診率は83.0%であった。集団検診の要精検率6.1%、昨年度と同様に東部4.3%と低かった。医療機関検診は11.3%で、依然として中部が21.2%と高い。

内視鏡検査の組織診実施者数2,195人で、組織診実施率8.9%で、市町村で格差がある。特に鳥取市は11.5%と高いが、委員の方で個別に指導等を行っているとのことだった。

検査の結果、胃がん144人（X線検査31人、内視鏡検査113人）、がん発見率（がん／受診者数）は、X線検査0.17%に対し、内視鏡検査0.45%で2.6倍も高かった。胃がん疑い49人（X線検査５人、内視鏡検査44人）であった。

陽性反応適中度（がん／精検受診率）はX線検査2.7%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ5.1%であった。

平成20年度から特定健診が始まり、市町村では特定健診とがん検診のセット検診を計画しているところが多いが、市町村国保以外の住民はがん検診だけを受診することになり、住民への周知不足、また、自己負担額を一部増額したところもあり、

前年度より受診者数が減少している。市町村に更なる受診率向上対策のお願いがあった。

〔平成21年度実績見込み及び平成22年度計画〕

平成21年度実績見込みは、対象者数188,186人に対し、受診者数は44,439人で平成20年度より約1,600人増の見込みである。

また、平成22年度実施計画は、受診者数46,546人を予定している。

がん検診受診率50%以上の目標達成には、対象者の把握が今後更に重要となってくる。アンケート調査等を行って、より正確な対象者数を現在も把握出来ている町がある中で、市部においてはそれが出来ないことを理由に国の集計方式を採用するのはどうだろうかという意見があった。

県としては、医療機関に協力して頂いて、職域検診等の実績を把握することを検討している。

〈鳥取県保健事業団調べ〉：三宅委員

〔住民検診〕

平成20年度の受診者数12,941人、要精検者790人、要精検率6.1%（東部4.2%、中部8.1%、西部6.1%）で、判定４と５の割合は5.8%（東部9.2%、中部5.3%、西部3.6%）であった。

要精検者数に対してのがん発見率は2.7%（東部2.9%、中部2.4%、西部2.9%）であった。

精検結果未報告は16.5%で、依然として改善されていない。

初回受診者は1,334人で、要精検者は87人で、要精検率は6.5%であった。判定４と５の割合は8.0%であった。

〔一般事業所検診〕

受診者15,908人のうち、要精検者は1,296人で、要精検率は8.1%で、判定４と５の割合は8.3%で、がん発見率は1.5%であった。精検結果未報告は29.2%であった。

職域検診は直接撮影で判定２が多いが、住民検診の間接撮影ではほとんど判定２が出ていない。

間接の写真が大変きれいになっており、異形成ポリープ、過形成ポリープとはっきり分かっているものについては、読影を見落としていないという証拠として判定２とした方がいいのではないか。

胃集検の精度管理に関する研究「間接エックス線写真読影の診断基準」を用いて読影を行っているが、読影委員によって読影にばらつきがある。診断基準を詳細に明文化する必要があるのではないかという意見があった。

今後、検討していくこととなった。

２．平成20年度胃がん検診発見がん患者確定調査結果について：秋藤委員

平成20年度に発見された胃がん及び胃がん疑い193例について確定調査を行った結果、確定胃がんは153例（一次検査がX線検査：車検診19例、施設検診13例、一次検査が内視鏡検査：121例）であった。発見癌率は0.357%であった。現在調査中が４件ある。

調査結果は以下のとおりである。

（１）早期癌は120例、進行癌は33例であった。早期癌率は78.4%で、東部78.8%、中部50.0%、西部85.5%であった。

（２）切除例は145例で、そのうち内視鏡切除が48例で全体の１／３を占め、増えている。

非切除例が８例で、全て手術不能であった。高齢者の症例が最近増えてきていることが影響していると思われる。

（３）性・年齢別では、男性102例、女性51例であった。80歳以上が全体の２割を占めている。40歳代、50歳代の女性からがんが７例見つかっており、若年層の受診勧奨が必要と思われる。

（４）早期癌では「Ⅱc」が59.2%で大半を占めている。進行癌では「１」、「２」で51.5%を占めている。例年どおりの結果であった。

（５）切除例の深達度では「t１」が118例で、そのうちmが89例であった。

（６）切除例の大きさは２cm以内が46.7%であった。車検診では43.8%、施設検診では8.3%、内視鏡検査では51.4%で、小さいものが多く見つかっている。

（７）早期癌の占拠部位は、内視鏡検査ではＸ線検査では見つかりにくい前壁が多く発見されている。

（８）肉眼での進行度stageⅠaはX線検査20例で64.5%、内視鏡検査97例で83.6%だった。

（９）前年度受診歴を有する進行癌は、東部４件、中部６件、西部２件であった。前年度の検診結果については現在調査中である。

内視鏡検査で大きさ、深達度、部位の記載がないものについては、再度調査を行う。

また、一次検診の結果はその他の疾病であったが、経過観察中に癌が発見された者があり、確定調査結果に計上した。

内視鏡検診が開始され約10年経過し、早期癌が多く発見され、内視鏡切除も増えている。

３．がん検診受診率向上プロジェクトについて：
下田県健康政策課がん・生活習慣病担当副主幹

鳥取県健康政策課においては、「がん検診受診率向上プロジェクト2009～新規受診者を掘り起こせ！～」として、休日がん検診支援事業やがん検診未受診者掘り起こしモデル事業等が行われている。また、がん撲滅キャンペーンにおける街頭アンケートを行った結果、受診しない理由として「忙しく、時間がない」という回答が多く、がん検診を受診しやすい体制整備と啓発活動を行う必要がある。2010年も事業を継続実施する。

協議事項

１．鳥取県胃がん内視鏡検診実施に係る手引きの一部改正について

手引きの中に内視鏡画像の読影について追加する案が示されたが、地区の実状を踏まえながら、再度検討することとなった。

肝疾患診療連携ネットワーク体制の確立に向けて

鳥取県肝炎対策協議会
鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会

■ **日　時**　平成22年２月13日（土）　午後２時～午後３時30分

■ **場　所**　鳥取県西部医師会　米子市久米町

■ **出席者**（26人）　岡本健対協会長、村脇協議会会長、川﨑専門委員会委員長
安藤・石飛・大城・尾﨑・岸・岸本・孝田・清水・富長・永見・野坂・藤井・前田・松木・松田裕之・満田・吉中各委員
オブザーバー：岡本欣也鳥取大学医学部附属病院（肝炎相談センター）、稲田
県健康対策課：下田副主幹
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主事

【概要】

平成21年４月には、鳥取大学医学部附属病院が「肝疾患診療連携拠点病院」に指定され、さらに今後、肝疾患相談センターの本格稼動